

# 平成 25 年度全国安全対策委員長会議記録

報告者 富樫 泰一

【日 時】 平成 24 年 11 月 10 日 (土)

【場 所】 岸記念体育会館 101・102 会議室 13:00～16:30 (101・102 会議室)

## 【出席者】

山田 隆	(財) 全日本スキー連盟教育本部	安全対策部長
片倉 善文	(財) 全日本スキー連盟教育本部	安全対策部事業委員会委員長
秋元 洋一	(財) 全日本スキー連盟教育本部	安全対策部技術検定委員会委員長
富樫 泰一	(財) 全日本スキー連盟教育本部	安全対策部技術検定委員会委員
池田 卯一郎	(公財) 北海道スキー連盟	副部長
木村 進純	(一財) 青森県スキー連盟	安全対策委員長
竹田 直彦	(財) 岩手県スキー連盟	安全対策委員長
照井 敏勝	宮城県スキー連盟	安全対策部長
遠田 武	秋田県スキー連盟	安全対策部長
鈴木 恵太	山形県スキー連盟	安全対策部長
安田 耕寿	福島県スキー連盟	部長
高瀬 勝則	茨城県スキー連盟	安全対策部長
新井 和夫	栃木県スキー連盟	安全対策部長
森山 直温	群馬県スキー連盟	安全対策部副委員長代理
北村 匡史	埼玉県スキー連盟	安全対策委員長
大信田 雅伸	(一財) 東京都スキー連盟	医事・安全対策委員会委員長
上杉 一哲	(公財) 神奈川県スキー連盟	安全対策委員長
田村 一司	(財) 長野県スキー連盟	安全対策委員長
川内 慎吾	(財) 新潟県スキー連盟	安全対策専門委員
原野 浩司	富山県スキー連盟	副部長
丸七 茂樹	石川県スキー連盟	安全対策委員長
中村 重夫	福井県スキー連盟	常務理事 (安全対策担当)
小椋 健司	愛知県スキー連盟	安全対策部長
竹内 和雄	三重県スキー連盟	委員長
片岡 弘明	滋賀県スキー連盟	安全対策部長
米田 幸雄	兵庫県スキー連盟	安全対策委員
伊澤 正純	鳥取県スキー連盟	委員長代理
高 政嗣	広島県スキー連盟	安全対策委員長
一戸 繁輝	日本スキーパトロール協議会	会長
保坂 淳司	日本スキーパトロール協議会	常任理事
小林 英記	スキー安全会	

## 【議題】

### 1. 安全対策部長報告 (山田隆)

#### (1)2012FIPS 報告

私も皆様と同じ第 10 期の公認パトロールです。スキーパトロールの地位向上・技術力向上・権限強化・目的の明確化のため、スキー連盟財政難の中だが、情熱で乗り越えていきたい。

第 18 回 FIPS 総会が、2012 年 4 月 12 日からフランス・シャテル (Chatel) スキー場で開催され、前登山部長・山田副部長が出席した。シャテルは、アルペンコース総全長 600km、ノルディックコース総全長 280km と巨大なスキー場だった。FIPS 総会はボランティアの集まりで、自費参加がほとんどの親睦が中心のフランクな会議だった。来期はカナダ・シルバースターで開催されるので、JSPA 一戸会長の協力も得て、日本からたくさんの参加者を募り参加したい。

## 2. 安全対策部事業委員会委員長報告 (片倉善文)

### (1) 2012 年度安全対策部事業について (資料 1)

2012 年度安全対策部報告書に基づき、安全対策部各事業の概略について説明があった。

### (2) 2013 年度教育本部組織について (資料 2)

2013 年度安全対策部の組織機構と担当専門委員の説明があった。

## 3. 安全対策部技術検定委員会委員長報告 (秋元洋一)

### (1) スキーパトロール検定種目の見直しについて (資料 3)

スキーパトロールとして必要な技術は何かについて専門委員で 1 年間検討を重ねてきた結果、資料のように規程改正した。新規規程は「オフィシャルブック 2013」「スキー指導と検定 2013 年版」に掲載済みである。基礎種目では、ブルークボーゲンの検定斜面を緩斜面から中急斜面に、小回りから中回りに、シュテムターンの廃止、横滑りの追加、片開きブルークの斜面を中斜面にし、制動要素より切り替え操作がスムーズにできるか観ることとした。パラレルターンは急斜面小回りとした。フリー滑降は不整地を含むに変更した。今年度検定会を実施した結果から問題点等洗い出して、次年度以降内容精選に努める。

搬送種目は、「操作」を「搬送」に変更した。「深まわり操作」を「大まわり搬送」とした。

### (2) スキーパトロール養成講習会要項について (資料 4)

検定種目の変更に伴う養成講習会カリキュラムの変更があったので、資料に基づいた養成講習会を実施してもらいたい。

## 4. 事業計画 (資料 5, 富樫泰一)

下記事業概略を説明し確認した。

### (1) スキーパトロール中央研修会・スキーパトロール技術員研修会

### (2) 公認スキーパトロール検定会

### (3) 公認スキーパトロール研修会

### (4) 第 28 回スキーパトロール技術競技大会

## 5. 加盟団体報告 (資料 6, 秋元洋一)

○ 池田 卯一郎: 3 月のスキーパトロール技術競技大会にご参加いただきありがとうございました。H23 年度・H24 年度のスキー場傷害調査報告書を持参したのでご覧ください。道内 101 スキー場の AED 設置調査を行った結果、約半数に設置されていて、2004 年から現在まで 27 回の使用例があった。

○ 木村 進純: パトロール受検者の減少傾向が止まらない。今シーズンは 2 名の予定。経費削減対策として東北ブロックで養成講習を行う必要がある。

○ 竹田 直彦: パトロール人員削減の影響で各種大会の救護要員の確保が難しくなってきた、近隣スキー場に協力要請している。

○ 照井 敏勝: 今年のスキーパトロール技術競技大会では、からくも最後のチーム滑降の成績で優勝で

きた。次回は他種目にも力を入れたい。

- 遠田 武：救急法の講習を県連で開催してくれないので、安全対策部がボランティアで開催した。スキー場パトロールが地元消防と連携して救急体勢を維持している。今シーズン受検者は8名いる。
- 鈴木 恵太：パトロール中央研修会通知書が県連を経由せず個人に発送されたので、県連を経由してもらいたい。昨年度検定会・研修会を山形県・蔵王会場で引き受けたが、SAJから検定会・研修会場へ依頼状を出してもらいたい。また、事業費精算の領収証の手続きが煩雑だったので改善してもらいたい。
  - 山田：加盟団体によって事務局の対応が遅かったりするので、通知書は個人宛に送っている。山形県連が希望すれば県連にも送るよう手配する。SAJの財政状況が厳しいので、財務管理が厳しく担当事務も厳格に対応している。
  - 富樫：依頼状は今期から対応可能になっている。
- 安田 耕寿：H24年度の福島県内スキー場営業実績は2-3割減、あだたは6割減だった。県連事業費も140万円から50万円に減額された。ボート搬送種目は3年連続ラップを取れた。
- 高瀬 勝則：受検者1名予定。
- 新井 和夫：風評被害で観光業は2割減、スキー場も2割減である。対人事故で刑事訴追、過失傷害罪で告発する事故が発生した。傷害保険に入っているにもかかわらず裁判になる事例が多くなってきた。
  - 小林：アメリカでは事故対応専門チームがあり、3人一組で巡回し、現場調査、報告書作成等業務を行っている。日本でも同システムを普及させたい。資料を持参した。自分が正しく他人が間違っているという価値観のため訴訟が起きやすい。
  - 山田：訴訟費用込みの保険が増えているので、裁判を起こすともっと取れる・ごね得社会となっている。
- 森山 直温：今シーズン群馬県で各種事業が開催されるので皆さんのご協力よろしくお願ひしたい。
- 北村 匡史：パトロール有資格者の横のつながりが少ないので活発にしたい。
- 大信田 雅伸：東京都連は会長・組織も一新し、安全対策部は医事・安全対策部となり、委員長も交代した。SAJ教育本部専門委員も中澤から織田に代わった。
- 上杉 一哲：安全十則を配付し、安全啓蒙活動を行う。
- 田村 一司：長野県安全対策委員13名が自費でお守り(1800枚)を作り配付しているが好評である。現場のパトロールが緊急対応で問題を発生させないように、判断に迷った場合はすぐ委員長に電話で確認するように携帯番号を教えている。パトロール用ミズノ製ベスト案内書を配付した。SAJの現体制では、パトロール研修会で旅客救助訓練がでず、雪崩救助訓練をするための外部講師も呼べないのは、いかがなものか？長野県では救急車・ドクターヘリとの共同訓練ができています。
- 川内 慎吾：パトロール研修会で旅客救助訓練を行ってもらいたい。
- 原野 浩司：道下より代わった。受検者を増やせるよう努力したい。
- 丸七 茂樹：バックボード訓練を固いバーンで行ったが難しかった。ヘリ救助訓練を予定している。
- 中村 重夫：扇浦に代わり出席した。JSPA総会で120名の参加があり盛会であった。
- 小椋 健司：正・準指導員養成講習の安全対策部への配分時間が少なく、スキー教程安全編の購入が必須となっていないのは問題である。
- 竹内 和雄：上記要望を是非お願ひしたい。
- 片岡 弘明：コルチナで頸椎損傷事故があったので、今年はヘリ救助訓練を行う予定。競技部の大会にはドクター・公認パトロールが帯同している。
- 米田 幸雄：パトロール受検者の減少がパトロール隊員の高齢化を招き問題になっている。昨年度初めて研修会主任講師を担当し、研修生とディスカッションしながら研修し好評だった。ドクターヘリ

との協力体制ができている。

- 伊澤 正純：JPTEC 講習に参加した。静止しているアキヤボート上での心肺蘇生の有効性について検討した。各県連の活動報告を参考にできるところからやっていきたい。来年度 8 月 31 日に鳥取県・皆生温泉で JSPA 総会を開催する予定なので、大勢の参加をお待ちします。
- 高 政嗣：3 年前から山口・島根合同で養成講習を行っている。広島は 7 名受検予定。日赤指導員に入ってもらい養成講習を手伝ってもらった。ドクター・看護師の協力を要請したい。
  - 秋元：スキーパトロール研修会について要望事項のまとめ
    - ・雪崩訓練やリフトからの旅客救助訓練の実施
    - ・研修内容に精通した外部講師の起用
  - 山田：可能な限り実現できるよう努力する。

#### 6. 日本スキーパトロール協議会報告（資料 7, 保坂淳司）

- 一戸 繁輝：9 月に福井で開催された総会に 120 名を超える参加があり、成功裏に終えることができた。来年度は鳥取県・皆生温泉で開催されるので、是非大勢の参加をお願いしたい。全国各地のパトロール仲間が膝をつき合わせて情報交換できる機会をいかしてもらいたい。
- 保坂 淳司：JSPA 広報誌に SAJ 各種事業を紹介するため取材協力願いたい。また各スキー場の求人広告を掲載したいので協力願いたい。会員勧誘にも協力願いたい。12 月発行予定の会報で案内予定だが、休眠会員発掘のためご協力をお願いしたい。

#### 7. スキー安全会報告（小林英記）

- (1) スポーツ統計：総務省の統計によると、1991 年に 13.5%だったスキー人口は、2011 年には 4.9%になった。その代わり手軽にできる、ウォーキング、軽い体操、釣りに人気があり、男性の 67.9%が、女性の 58.3%が何らかのスポーツに参加している。スイスでは、アルペンコース総延長 7300km、クロスカントリーは 5000km あり、インターハイキングが盛んに行われている。日本もスポーツ基本法が制定されたのだから、長期的国家的戦略が必要だろう。
- (2) 専門家時代：専門家に対する批判が集中している。原発事故、医療過誤、税理士の脱税幫助罪、逆にクライアントからは注意義務違反に対する債務不履行として損害賠償請求を受けた、公認会計士の粉飾決算等。原因は、専門家のおごりに対する批判である。これらを防ぐため、日々精進を怠らず研鑽に努め、第三者の視点を入れつつ、透明性の高い議論をし、情報公開・開示を大きく推進し、市民の健全な批判を意志決定や運用に適切に反映されるように機能させる共通認識（コンセンサス）を国民が持たなければならない。
- (3) スポーツ基本法：去年 8 月 13 日に施行された。S39 年にスポーツ振興法が施行されて以来の大改革。スポーツ立国宣言。スポーツ団体の安全対策。業務上賠償責任保険加入パトロール 835 人。パトロールの事故当事者へのヒアリングの重要性。多様化する損害賠償請求。中学生・高校生を対象としたパトロール体験教室。
- (4) 質疑
  - 新井：パトロールの当事者へのヒアリングの関与の仕方について。
  - 小林：アメリカの事故対応チームでは、腕章に質問項目が明記されていて、アシスタントが記録する。日本でも事故対応専門チームを作る必要がある。
  - 新井：スキー場事故の 2～3 割は対人事故。客の対応は？
  - 山田：今後はパトロールの一言が大きな影響を及ぼす可能性がある。
  - 田村：スキー場での事故者当事者からパトロールに対して、相手の損害賠償に応じるべきかどうか助

言を求められ、軽率な発言から思わぬ展開になったことがある。

- 小林：パトロールは「判断できません」を常套句に。
- 小林：バックボードはアキヤボートに乗るか？AED も併用できるか？トボガンを普及させてはどうか？AED は常に誰でも持ち出せる保管状態に。

#### 8. その他

- 池田：パトロール資格の復活の可能性について。
- 山田：加盟団体から復活申請のある指導員やパトロール資格については、復活に関する現行規程が無いので、再登録できる手続きを進めている。資格維持に関する規程改正を考えている。
- 秋元：パトロール規程そのものがないので規程整備の必要がある。

#### 9. 閉会宣言

- 山田理事：私は 40 年以上前のパトロールですが、昔に比べて最近のパトロールの任務や義務は厳しくなっている。小林さんが紹介したケースが起きないように努力して良いシーズンを迎えたい。安全対策部の理想は高いが現実にはお金もスタッフも権限もない。海外ではパトロールの権限は強く、それに伴う強い義務も発生している。パトロールの厳しい目で厳しくチェックすることでスキー場の事故を減らせるよう協力をお願いしたい。
- 秋元洋一：色々議論がなされたが、これで終わりにせずこの後開催される中央研修会や様々な行事の中で議論を進めてもらいたい。今日はこの会議の後様々なイベントがあるかもしれませんが無事に帰宅してください。ご苦労様でした。

以上